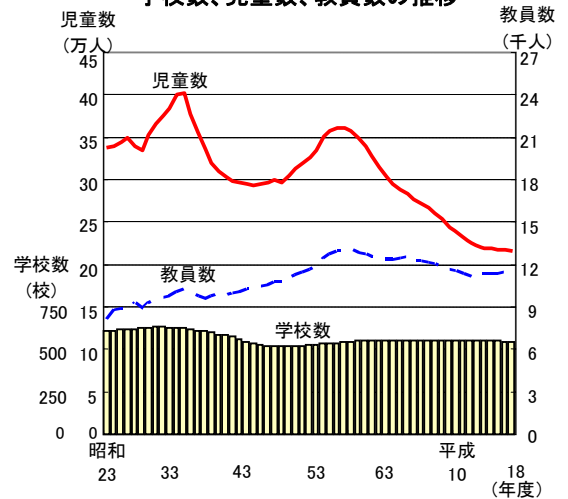


1 気になる学校事情！ H18 学校基本調査報告書刊行

学校基本調査って何？ このたび、平成 18 年度学校基本調査の結果（静岡県版）がまとまりました。この調査は、戦後まもない昭和 23 年から毎年行っている歴史のある調査で、学校数、生徒数などをはじめ、教育行政に関わる様々な項目を調べています。

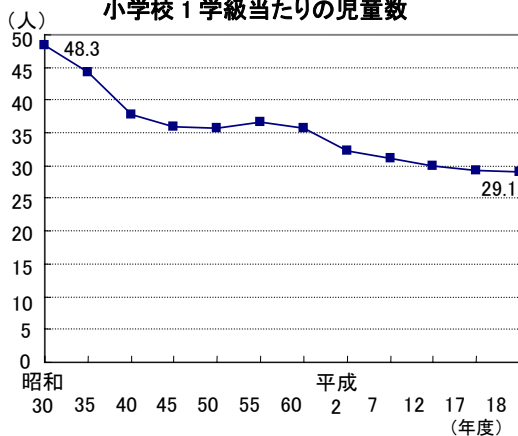
最近の注目点は、児童・生徒数（人口が減っている今、子どもの数は？）、長期欠席者数（気になる不登校生徒の数は？）、大学・短大の進学率（受験生の親御さん必見）などですが、その他にも県や市ごとの外国人生徒数、専修学校の入学状況なども分かるんです！

学校数、児童数、教員数の推移

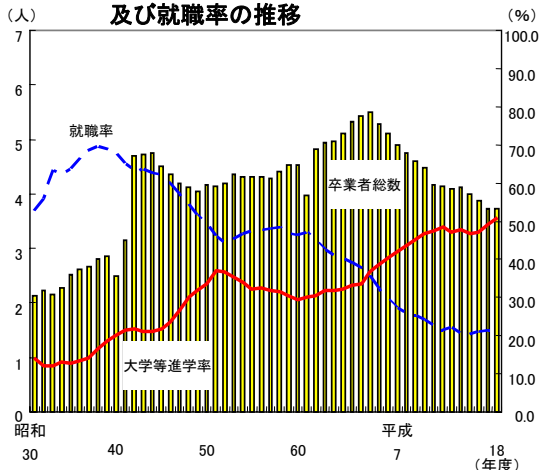


一家に一冊？ ニート、いじめ、教育基本法改正…。最近では、教育関連のニュースが日常的に報道されています（この他、「専門学校大寒波」なんて新聞記事もありました）。多くの人が教育問題（子育て問題）に関心をもっている今、この報告書が行政資料だけで終わるのはもったいない。子どもをもつ親をはじめ、教育問題を考える多くの人に見てほしい。そんな願いを込めた 1 冊です。

小学校 1 学級当たりの児童数



高校卒業生数、大学等進学率及び就職率の推移



2 統計資料から見えるもの

少しだけ歴史をひも解いてみましょう。たとえば 1 学級あたり児童数は、左グラフで分かるように昭和 30 年の 48.3 人が平成 18 年には 29.1 人になっています。教室の風景も大きく変わっているようです。一方、今年、県内では大学・短大の進学率（現役）が初めて 50% を超えました。

ここでクイズです。進学率が就職率を逆転したのはいつでしょう？紙面の左下グラフに注目してください。それは平成 4 年です。この年を境に卒業生総数の減少など、わが県の数値が変化し始めたことがわかります。また、調査項目に目を向けてみると、進学も就職も職業訓練も選ばなかった人（いわゆる「家事手伝い」など）の項目から、平成 16 年に「一時的な仕事に就いた者」が分離されるなど、社会の変化（フリーターの問題など）が反映されています。

統計は社会の鏡！視点を変えてみれば、いろいろなことが見えてきます。

「平成 18 年度学校基本調査報告書」（静岡県版）

- ・統計協会にて販売中（販売価格 500 円）
- ・静岡県HP「統計センターしずおか」でも見られます。
アドレス <http://toukei.pref.shizuoka.jp/>